

條、中一條渡船せざるを得ず。常に船三隻を備ふ。減水期には騎渡すべしと。此河又玉河（フイホ）と稱す。蓋し玉石を出すを以てなり。此夕坡斯坎（パスカン）に到りて投宿す。行程約十里。坡斯坎は人家約百戸、稅局、驛傳、官店及民店大小六戸を有す。沿道、路側に並木あり、且つ大渠水あり道路と並行するが故に、水田耕地多く、道路亦良好なり。

十六日午前五時五十分發、七時シヤンベ（三人家約）八時イーコス（一人家約）九時過

カルガリ
一ク

聽雜阿布河（ツズナッブ）を徒涉し、十一時サイセンペ（百人家約）に休憩午餐し、午後四時カルガリ

ク即ち葉城縣（イエチヨンシエン）に着す、縣官易潤痒來りて途に迎ふ。城内漢人八十四戸、漢回二十六

戸、纏頭回五百二十五戸、又縣管轄四郷八扎の總戸數は、漢民二百四十八、纏頭二萬七

千八百三十五、入籍安集延人二十八戸、以上總人口男女大小合せて十二萬五千四百

十四人を有し、馬隊一旗（三十五人纏頭にして内漢人）駐屯す。物産は羊毛布（ベルと呼ぶ）駱

駝毛布（メンチと呼ぶ）羊毛、果物、絹糸等とす、氣候は十一月下旬に凍氷し、三月に解げ

降雪は年中皆無のこと有りと云ふ。沿途部落相望み、稻田少く、火田多し。聽雜阿

布河西方約二千米突間は、鹹帶に屬せり。是日行程約十四里餘。

二、葉城縣より喀喇崑崙嶺に至る三道